

令和元年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策			
令和元年度教育目標	番号	令和元年度の重点目標	目標達成のための方策	評価指標	評価	取組状況と課題	評価		意見		
人とつながって生きる力を向上させる(高まっていく人間力)	1	自他の人権意識を尊重し、互いが高め合う切磋琢磨の推奨	生徒に丁寧に向き合い生徒が安心して学べる集団づくり	あいさつの励行。人権・同和教育の推進(人権同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。研修等を通じ教職員の人権意識やいじめに対する認識を高める。)	生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。いじめアンケート・アンケートQUの分析。平素の生徒の観察。	A	生徒に対して3年間の体系的な人権・同和教育を実施する一方、教職員も隣保館での研修に参加して、学校全体で人権意識の育成を図った。いじめアンケートやアンケートQUを実施した後にいじめ対策委員会等を開催して対応した結果、アンケート結果で概ね良い評価を得た。	A	いじめは、被害者に深刻な影響を与えてしまう。絶対に許されない行為であることを十分指導してほしい。	いじめ対策については、今後も迅速に対応できるように校内組織や外部機関との連携をさらに密にする。人権感覚を高めるために人権・同和教育だけでなく道徳教育の充実も図る。	
	2		様々な活動で主体的に活動	生徒会活動や委員会活動の機会を増やし、併せて内容の充実も図る。部活動紹介で入部を呼びかけ、活動の状況や成果を生徒に目に見える形で発信する。全国レベルの実績を目指す。文化祭・文化部合同発表を充実させる。	部活動加入状況。HPや学校だよりでの情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	生徒会が企画運営した東雲祭(学園祭)は、ほとんどの生徒が肯定的な評価をしていた。部活動の活躍も顕著で、体育系では多くの部活動が全国大会、中国大会出場を果たし、令和元年度県総体学校対抗成績で6位となった。文化系でもいくつかの部が高総文祭等の全国大会への切符を手にした。		生徒会活動については、クラス数が減少するので、東雲祭の内容等を検討する。部活動については、外部との連携も図りながらさらなる活性化を進める。		
	3		生徒に丁寧に向き合い生徒が安心して学べる集団づくり	各学年の生徒支援担当とも機能的に連携しながら、気づきシートや個別の指導計画なども活用し、支援や相談を効果的に行う。	対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。気づきシートや支援計画・指導計画の作成・活用状況。	A	生徒支援委員会や職員会議を通して問題を抱える生徒の情報共有が図られ、カウンセリングが必要な生徒に対してスクールカウンセラーとの面談が実施された。また、特別支援教育コーディネーターが中心になって教員研修が実施されたり、個別の支援が必要な生徒に対して適切な支援が行われたりした。		保護者に積極的に学校の教育活動に参加してもらうため、生徒たちが松江東高等学校でいきいきと活動する姿を積極的にPRすると良いのではないかと。		特別支援教育に係る研修等を実施し、教員の資質能力の向上を図る。生徒支援委員会の機能を活かしつつ、職員会議で支援を要する生徒についての情報を全教職員で共有し、支援する。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる(向かっていく学力)	4	自ら学びを取りに行く生徒を育てる	「主体的・対話的で深い学び」	主体的・対話的で深い学びとなる授業を学校全体で展開していく。また、ETC・学力テスト・模擬試験の効果的な実施や課題の質や量を検討する。課題解決型学習や土曜講座を充実させる。	授業アンケートの結果。学習時間調査の結果。学習成績、実力テスト成績。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	ETCや放課後補習、土曜講座等については、保護者の寄せる期待は高いが、生徒の中にはきちんと取り組むことができない者もいた。例年に比べて家庭での学習時間が少なく、家庭学習が定着していない生徒が多いのが気になった。課題提出を徹底させる等、学校全体で指導する必要がある。	B	生徒たちがもっと主体的に学べると良い。例えば、社会の出来事を題材として課題学習に取り組ませたり、上級生が身につけた内容を下級生に教える活動を行ったりすると良いのではないかと。	ICTをさらに効果的に使用して、生徒が主体的に学びたいような授業改善を図る。家庭学習については、教科担当と担任の連携を密にし、生徒の学習習慣の定着を図る。	
	5		キャリア教育の推進	地域、企業、大学(主に島根大)等と連携し、3年間を見通したキャリア教育を準備する。生徒が主体的にライフデザインを考えるような仕掛けを工夫する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。	A	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を活かした、3年間を見通したキャリア教育のプログラムが構築されつつある。プログラムの1つとして、1年生全員がライフデザインについて考えるために「しまね大交流会」に参加し、企業の若手社員等の大人との座談会に臨んだりした。		「データサイエンス」の学習内容に期待するが、統計学については数学の授業で教えてほしい。		コンソーシアムを構成している地域企業等の大人との協働や島根大学の学生との交流をととして、自らの生き方を考えさせ、キャリア形成を図る。
	6		「主体的・対話的で深い学び」	公開授業を全員実施とするなど校内研修を充実させるとともに、校外の研修や研究会に積極的に参加する。	公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。	B	他校の教員を招いての公開授業が実施されたり、ICTの利用時間が増えたりする等、教員が意欲的に主体的・対話的で深い学びとなる授業を展開している。生徒同士による学び合いや教え合いも増えた。一方、書籍への興味・関心の向上については、本の貸出冊数が少なく、図書館の利用のあり方に課題が残った。		教員は積極的にICT機器を使用しているようだが、生徒はほとんど使用していない。授業中に生徒もICTを使えるようになると良いのではないかと。		研究授業後の授業検討会の時間を確保し、授業力向上のための授業研究が活発に行われるようにする。図書館については、引き続き蔵書や室内環境を整備するとともに、生徒の図書委員会を利用し、生徒がより本を借りたくなるような取組を検討する。
	7		キャリア教育の推進	生徒面談、保護者面談を定期的に行い、進路検討会を活用して一人ひとりの学力向上や進路目標実現を支援し、「自立への道程」を考えさせる。	生徒・保護者面談の実施状況。進路検討会等への参加状況。平素の生徒の観察。	B	各学年とも進路選択に向けての生徒面談を定期的に行うことができた。また、保護者に対しても、学年集会や研修会を通して大学入学共通テストをはじめとする進路に関する情報を提供することができた。各学年とも進路目標実現を支援するための進路検討会が適切に実施されていた。		本の貸出冊数が少ないことについては、図書館の魅力アップが必要であろう。図書館のレイアウトを変えただけで劇的に貸出冊数が増えた学校もあるようである。		共通テストを初めとする新入試に対応できるよう、学習内容と社会のつながりを意識させるなど1年次からの体系的な進路指導を行い、早期の目標設定をさせる。進路検討会がより充実したものとなるよう、進行方法や内容を工夫する。
地域社会の今と未来に関わる力を育成する(広がっていく社会力)	8	地域社会への貢献意識を向上させ、地域に信頼される学校づくり	積極的な情報発信	ホームページや学校だより「EAST NEWS」、進路ジャーナル、保健だより、学習センターだよりなど通して学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。また、保護者との連携を密にし、PTA活動を促進する。	学校だよりの発刊状況。ホームページの更新状況や閲覧状況。保護者アンケートの評価。	A	「EAST NEWS」、「進路ジャーナル」、「保健だより」、「学習センターだより」等について計画通りに発行することができた。「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組を紹介するために、新たに「魅力化ニュースレター」を発行したり、HPをリニューアルしたりする等、情報発信力の強化に努めている。	A	HPのリニューアルにより、PDFを開かなくても良くなり、知りたい情報にたどり着きやすくなった。	HPでの情報発信については、分掌ごとに担当者を指定し、学校の取組を積極的にPRする。また、保護者や中学生の関心が高い部活動の情報も更新頻度を高め、多くの人に松江東高等学校の魅力PRする。	
	9		地域社会への貢献	近隣の学校(幼小中大)や企業や社会人との連携を強化して、地域資源を生かした総合的な学習(探究)の時間等を推進する。	総合的な学習(探究)の時間の各プログラムの事後アンケートの結果。地域の方々の声。	A	島根大学、松江市、中小企業家同友会、松江商工会議所等とともに「松江東高等学校魅力化コンソーシアム」を立ち上げ、地域資源を生かした課題解決型学習等を実施した。また、コンソーシアムの「教育プログラム開発ワーキンググループ」を中心に、次年度の探究学習のプログラムを開発した。		与えられたものをこなすだけでなく単なる作業で終わってしまう。課題解決学習より課題発見学習に少しずつシフトしていくと良い。		総合的な探究の時間に実施する「地域共創人育成Project」の取組を通して、地域との協働を進め、持続可能な地域社会の創造に貢献する。
	10		地域社会への貢献	ボランティア活動や学校設備・地域資源の有効利用を通じて、地域や学校の一員であるという意識を育てる。	生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。地域の方々の声。	B	環境美化活動については、生徒会の保健委員会が掃除用具の点検や教室のゴミ箱掃除、ゴミの分別指導を行っており、アンケート結果でも高い評価を得た。ボランティア活動については、自主的に参加する生徒が増えたり、「川津児童クラブ」や、「かわつんの未来を語る会」が主催した活動等に参加していた。		地域のの方々から、「松江東高等学校は目に見えて頑張っている。」といった声を聞くことが多くなった。魅力化・特色化についての取組により、学校の魅力度がアップしているのではないかと。		継続してゴミの持ち帰り、分別を呼びかけ、生徒の保健委員会による掃除用具の点検と整備を実施する。ボランティア活動を含め、校外での活動に積極的に参加するように生徒に働きかける。